

東ティモール（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在東ティモール日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	32	609	9	32	609

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

2003年にラファエラ基金でカトリック系の中村葉子シスターが日本語の指導を始めた。2016年には東ティモール国立大学で非正規の日本語コースが開講され、2018年から2020年の間に学校教育以外で3団体が日本語講座を開講した。

2020年3月28日に東ティモール政府は新型コロナウイルス蔓延防止の非常事態宣言を発令。それに伴い、東ティモール国立大学を含む全日本語教室が一時閉鎖された。2021年11月末の非常事態宣言解除後、2022年初頭から日本語の授業が徐々に再開された。2023年に技能実習生の送り出しが始まったことから、日本語学習者数は一時増加したが、その後は停滞している。

背景

2003年に始まった日本語教育は、多文化教育、当地日本人との交流、留学準備などを目的としていた。2023年に東ティモールから日本への技能実習生送り出しが開始されたことで、日本語学習への関心が高まったが、その後伸び悩んでいる。

特徴

学校教育では、東ティモール国立大学以外で日本語教育は行われておらず、民間の日本語講座で学生・社会人などが日本語を学んでいる。

最新動向

2025年10月現在、10団体（東ティモール国立大学、国立職業訓練センター・ベコラ、ケサディップ・ルアク・センター（CQR）、YMCA 東ティモール、みらいサト、CICANADA 財団、デフォティル・トレーニングセンター、アキト・タンキ・ダ・ゲーラ、東ティモール石油工学協会、AROMD-TL）での日本語教育コース開講が在東ティモール日本国大使館に報告されている。日本語指導は主に在留邦人及び日本留学・滞在経験のある東ティモール人が行っており、2022年12月にYMCA 東ティモール主催の朗読・歌コンテスト、2024年8月にみらいサトチロマル校主催の「日本語朗読・歌コンテスト」、2025年9月にみらいサト デイリ校主催の日本語スピーチコンテスト（すべて国際交流基金助成）が実施された。2023年に東ティモールから日本への技能実習生送り出しが始まったことから、日本での就労を目的とした日本語学習者が多い。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

東ティモール国立大学で2016年から日本語講座実施。経済学部観光学科の学生が対象で、主に観光業界へ就職希望の学生達が、日本人観光客への接客対応、また日本への留学希望などのため受講し、日本留学経験のある東ティモール人講師2名が、初級・中級コースをそれぞれ担当した。

一時休講していたが、2025年4月に同大学の全学部生を対象に初級コースが再開され、日本で日本語を学んだ東ティモール人講師1名が指導している。同コースは特別科目（履修単位対象外）である。

学校教育以外（9団体）

1. ケサディップ・ルアク・センター（CQR）

2018年9月開講。日本語初級・中級コースが開設され、当地に長く滞在する日本人講師、日本人ボランティア講師と日本で研修経験のある東ティモール人講師の指導のもと、青少年が日本語を学んでいる。

2. YMCA 東ティモール

2019年2月開講。日本に留学経験のある東ティモール人講師を含む3名が日本語コースをボランティアで指導。現在46名の青少年が日本語を学んでいる。

3. みらいサト チロマル（スアイ県）及びディリ

インドネシアとの県境に近いスアイ県で2020年7月開講。日本人がZoomで大人向けに週2回授業を行う他、東ティモール人講師が地域の小中学生約20名に設立者の自宅で日本語を教えている。2023年10月にディリ校を開校。62名の生徒が3名の東ティモール人ボランティア講師と1名の日本人ボランティア講師から日本語を学んでいる。

4. 東ティモール石油工学協会（AEP-TL）

職業訓練を行うNGO。日本語以外に英語、ポルトガル語、韓国語、IT、石油・ガス工学等を教えている。日本語講座は1クラス15～20名で3か月のコース。講師は1名。

5. CICANADA 財団

ホスピタリティ産業、経営・管理、顧客サービス、英語等を指導する職業訓練センター。日本語講座は2024年4月に開講された。28名の生徒を1名の講師が教えている。

6. デフォティル・トレーニングセンター

英語、ポルトガル語、韓国語、中国語、パブリックスピーキング、リーダーシップ、コンピュータサイエンス等を教える人材開発センター。日本語講座は2023年に開講。198名の生徒を2名の講師が教えている。

その他、技能実習生の受け入れ開始を踏まえ、学校教育以外の日本語講座が新たに報告されている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

初等教育6年（6～11歳）及び前期中等教育3年間（12～14歳）の9年間は義務教育修了後、後期中等教育3年（15～17歳）の9-3制。公立の初等・中等教育機関（後期中等教育機関を含む）での教育は無償。

高等教育は、首都ディリに集中しており、唯一の国立大学である東ティモール国立大学、及び私立大学の計19校（ディリ大学、平和大学、ディリ工科大学、ベタノ技術大学、カトリック教育大学、東ティモール・コーヒー大学など）がある。

教育行政

2018年より、教育省が二分された。初等・中等教育は「教育省」、高等教育は「高等教育・科学・文化省」の管轄となっている。

言語事情

公用語は、現地語テトゥン語とポルトガル語。実用語としてインドネシア語と英語も使用されている。

東ティモールには、公用語のテトゥン語のほかに 30 以上の地方語（マカサエ語、マンバイ語、ケマック語など）が存在する。ポルトガル語は公用語とされているが、法律、政府における公文書や会議を除き、日常生活では殆ど使用されていない。

学校での教授言語は、初等教育低学年ではテトゥン語が中心、4年生からテトゥン語にはない単語を補助する形で徐々にポルトガル語に移行していく。

当地の教育省には多くのポルトガル語系（ポルトガル人、ブラジル人）外国人がアドバイザーとして勤務しており、当国からポルトガルに留学する東ティモール政府職員も多い。さらに、労働者派遣制度のある豪州や韓国などでの就労を目的とし、英語や韓国語などの学習者も増えている。

現在の教員はインドネシア統治時代（1976 - 2002）に教育を受けていた世代で、ポルトガル語で作成されている教科書が理解できない教員が多く、十分な指導を受けられない児童・生徒の学力低下が問題となっている。

4. 学習環境

教材

高等教育

『いろいろ 生活の日本語』（国際交流基金）

学校教育以外

『できる日本語』（アルク）

『みんなの日本語（初級）』（スリー・エー・ネットワーク）

『Lian Japones-Tetun』（Julian Nunes Jose 著）

『Loro Loron ! Lingua Japaun』（Julian Nunes Jose 著 国際交流基金助成により出版）

5. 教師

資格要件

初等・中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

日本語教師の資格について、特に規定はない。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修は確認されていない。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは確認されていない。

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

日本語パートナーズ

2025年度 計7名（短期）

国際協力機構（JICA）からの派遣

JICAからの派遣は行われていない。

その他からの派遣

なし

8. シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9. 評価・試験

評価・試験の種類

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10. 日本語教育略史

2003年

ラファエラ募金がディリ市内ベボヌク地区で日本語教室を開講

2016年10月

東ティモール国立大学（UNTL）経済学部観光学科（ディリ学舎）で日本語コースを開講（非正規コース：Non Degree）

2018年9月

ケサディップ・ルアク・センター（CQR）がディリ市内コルメラ地区で日本語教室を開講

2018年11月	第1回 日本語スピーチ・コンテスト開催 (於：東ティモール国立大学)
2019年2月	YMCA 東ティモールがディリ市内タシトル地区で日本語教室を開講
2019年11月	第2回 日本語スピーチ・コンテスト開催 (於：東ティモール国立大学)
2020年7月	「みらいサト」がスアイ県チロマル地区で日本語教室を開講
2020年11月	第一回 日本語コンテスト開催 (於：みらいサト)
2020年12月	第一回 日本の歌・朗読コンテスト開催 (於：YMCA 東ティモール)
2021年9月	第二回 日本語朗読コンテスト開催 (於：みらいサト)
2022年3月	第二回 日本の歌・朗読コンテスト開催 (於：YMCA 東ティモール)
2022年7月	第三回 日本の歌・朗読コンテスト開催 (於：みらいサト)
2022年12月	第三回 日本の歌・朗読コンテスト開催 (於：YMCA 東ティモール)
2023年4月	東ティモール国立大学での日本語コース休講
2023年10月	みらいサト ディリ校開校
2024年8月	第四回 日本の歌・朗読コンテスト開催 (於：みらいサト チロマル校)
2025年4月	東ティモール国立大学での日本語コース再開
2025年9月	第一回 日本語スピーチ・コンテスト開催 (於：みらいサト ディリ校)
2025年11月	第一回 JOCV 主催日本語コンテスト開催

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。

なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)